

マイクロセメント モルクラフト

MORCRAFT

水まわりやテーブル天板にコテ DIY

「モルクラフト」について

タカラ塗料のマイクロセメント「モルクラフト」は、水回りでの使用可能が大きな特徴。常に水が掛かるようなキッチンカウンターや洗面台、シャワーブースなどの水回りやテーブル天板などにおすすめです。また、屋外にも施工が可能です。DIYでも施工が実現できるよう、タカラ塗料が生み出したオリジナルプロダクト。施工に使用する材料や工程はシンプルで、工期が短いものを採用。熟練の職人のような技術や特殊な専門工具がなくても手順さえ丁寧に守れば、初心者でも満足のいく仕上がりになります。

モルクラフト 施工要領

用意するもの

- 塗材類** ★セット内容物（専用ベースは選択制）
- ★モルクラフト専用プライマー またはモルクラフト専用強力プライマー
 - ★モルクラフト専用ベース（必要に応じて）
 - ★モルクラフト主材
 - ★モルクラフト専用トップコート（2液タイプ）
 - ・内外部用パテ（溝を埋める処理が必要な場合）
 - ・含浸シーラー ※カチオン系（アク止めが必要な場合）
 - ・メッシュ（必要に応じて）

道具類

- ・コテ
- ・かくはん棒
- ・ビニール手袋
- ・塗料を入れる容器
- ・L字コテ（出隅部分に便利）
- ・ローラー
- ・サンドペーパー（木部には100番、金属面には40-60番程度）またはサンダー
- ・計量器・ウエス（不要な布など）
- ・マスキングテープ・ビニールシートなど

モルクラフトの構成

モルクラフトは4層の構成でできています。



モルクラフト主材を塗る前の下地処理とプライマーの選び方

木部用の施工には「モルクラフト専用プライマー」、金属面などの硬質のツルツルした面にはより密着性の高い「モルクラフト専用強力プライマー」を使用します。

施工する目的や場所によって「モルクラフト専用ベース」と「メッシュ」の使用が変わります。以下の表を参考にしてください。

施工する場所	下地処理とプライマーの選び方
合板下地や石膏ボード下地などの壁面	接続箇所メッシュ+内外部用パテ処理 ↓ 含浸シーラー 塗布 ↓ モルクラフト専用プライマー 塗布
ベニヤやMDF板などのむき出しの木部（一枚物）	含浸シーラー 塗布 ↓ モルクラフト専用プライマー 塗布 ↓ 全面にモルクラフト専用ベース（木部の溝が気になる場合）
ベニヤやMDF板などのむき出しの木部（継ぎ目あり）	接続箇所メッシュ+内外部用パテ処理 ↓ 含浸シーラー 塗布 ↓ モルクラフト専用プライマー 塗布 ↓ 全面にモルクラフト専用ベース
既存のテーブルや棚など（木製素材）	サンドペーパー研磨（#100） ↓ モルクラフト専用プライマー 塗布

施工する場所	下地処理とプライマーの選び方
ステンレス製のシンクなど金属面、人造大理石のキッチンワークトップなど	サンドペーパー研磨 (#40-#60) ↓ モルクラフト専用強力プライマー 塗布
釉薬を使ったタイル、陶磁器のタイルなどの壁面	サンドペーパー研磨 (#40-#60) ↓ モルクラフト専用強力プライマー 塗布 ↓ 目地を埋めながら全面にモルクラフト専用ベース
既存のテーブルや棚など (樹脂系素材)	サンドペーパー研磨 (#40-#60) ↓ モルクラフト専用強力プライマー 塗布
モルタル下地やコンクリート下地の平らな床面※	モルクラフト専用強力プライマー 塗布 ↓ 全面にグラスファイバー製メッシュシート モルクラフト専用ベース (メッシュ伏せ込み) ↓ モルクラフト専用ベース (メッシュの目を完全に消す)
タイルなどが貼ってあり溝のある床面や天板	サンドペーパー研磨 (#40-#60) ↓ モルクラフト専用強力プライマー 塗布 ↓ 内外部用パテで溝埋め ↓ 全面にグラスファイバー製メッシュシート モルクラフト専用ベース (メッシュ伏せ込み) ↓ モルクラフト専用ベース (メッシュの目を完全に消す)

※土間コンクリートでひび割れない状態であれば、メッシュ伏せ+モルクラフトベースは不要です。

土間コンクリートの上に不陸調整でモルタル仕上げをしている場合はクラックの恐れがあるため、メッシュ伏せ+モルクラフトベースの工程は行ってください。

モルタル下地やコンクリート下地の土間の場合、地面からの防湿対策を行ってください。また、モルタル、コンクリートが十分乾燥している状態から作業を開始してください。

モルクラフト 施工手順

下準備

床や汚したくない場所をビニールシートなどで覆います。この作業を養生（ようじょう）と言います。やする作業をする際に粉が飛び散ってしまうので家具なども覆っておきます。施工したくない箇所はマスキングテープで養生します。

木部施工の場合



木材を組み立てたビス穴がある場合は、凹みをパテで埋めておきます。パテが乾いたら、サンドペーパーでやすりがけをして表面を平らにします。

専用プライマーにはアク止めの効果はありません。ベニヤ合板などの木材や古壁などに施工する場合は、含浸シーラー（カチオン系）を塗ってアク止めをします。含浸シーラーを塗った後、2時間程度乾燥させます。

1.モルクラフト専用プライマーを下塗りする



容器をよく振ってから専用プライマーを取り出し、同量の水でうすめます。

（専用プライマー1：水1 の割合）

ローラーで塗り広げます（1回塗）。透明の液体なので塗り残しのないよう注意しながら、施工面全てに塗布します。専用プライマーを塗った後、2～3時間程度乾燥させます。

壁面や既存のテーブル・棚などモルクラフト専用ベースの必要が無い場合は工程3に進みます。

金属面やメラミン樹脂、タイルなど施工の場合



密着性を高めるために40-60番くらいのサンドペーパーでキズをつけます。

サンドペーパーでやすりがけをして出た粉はきれいに拭き取っておきます。

1.モルクラフト専用強力プライマーを下塗りする



容器をよく振ってから専用強力プライマーを取り出し、原液のまま使用します。塗りにくい場合10%程度まで水でうすめることが可能です。

ローラーで塗り広げます（1回塗）。専用強力プライマーを塗った後、2～3時間程度乾燥させます。

ステンレス製のシンクなど金属面、人造大理石のキッチンワークトップなどモルクラフト専用ベースの必要が無い場合は工程3に進みます。

2.モルクラフト専用ベースを中塗りする



モルクラフト専用ベースは合成樹脂入りのサラサラとしたセメントの粉。

専用ベースに対し、25～40%程度の割合で水を加えなめらかなペースト状になるまでよく混ぜます。専用ベース3kgに対して、水は0.75～1.2L程度水を加えます。

かくはん棒やヘラを使って底面からしっかり混ぜ、セメントの粉が残らないようにします。



コテを使って全体にうすく均一に塗り広げます。合板の継ぎ目などからのひび割れを防ぐため、つなぎ目にはメッシュテープを挟みこみます。この時、メッシュテープの網目が浮き上がらないように気をつけます。

専用ベースを塗った後、3～4時間程度乾燥させます。

乾燥後、目立つ凹凸や角はサンドペーパーで平らにやすりがけをしておきます。

床面施工の場合



モルクラフト専用ベースを塗った上にグラスファイバー製のメッシュシートを敷き、モルクラフト専用ベースで伏せ込む作業を行います。

専用ベースを塗った後、6～8時間程度しっかり乾燥させます。

乾燥後、目立つ凹凸や角はサンドペーパーで平らにやすりがけをしておきます。



乾燥すると、メッシュシートが透けて見えてしまっているため、1回目よりもやや水分量多めに溶いたモルクラフト専用ベースを塗布してメッシュシートの目を完全に消す作業を行います。

専用ベースを塗った後は、3～4時間程度乾燥させます。

「モルクラフト専用ベース・メッシュシート・モルクラフト専用ベース」の構造になるため、専用ベースは通常の倍量必要になります。

3.モルクラフト主材の色をつくる



モルクラフト主材の色を混ぜて作成する工程（調色）の説明をします。

現在の調色対応色は、「ミストグレー」「トープモカ」「オパールグレー」です。
既調色の色（シャドウ、プライマリーホワイトなど）は、この工程は不要です。

モルクラフト主材（プライマリーホワイト）3kg に対し、カラーボトル1本（30g）の全量を加えて着色します。

カラーボトルはよく振り、中身をすべて主材に入れてください。容器に颜料が残ると色ムラの原因になるため、ボトルに少量の水を加えて振り、残った颜料もすべて主材に加えます。

色が均一になるまで、付属のかくはん棒やヘラを使い、底からしっかりと混ぜてください。かくはん機を使用すると、より効率的に混ぜることができます。

一度に大量の調色をする場合は、混ぜ方などで容器によって色ぶれが起こらないように、全てまとめて作成することをおすすめします。

色の混ぜ方動画



こちらより
YouTube動画をご参考ください



4.モルクラフト主材 一度塗り目 凹凸をつけるようにうすく模様をつける



モルクラフト主材は柔らかいペースト状。容器の中身をよくかき混ぜて必要量を取り、塗っていきます。主材は2回塗る必要があります。

一度塗り目は薄く塗って柄を付ける目的があります。必要量目安は1㎡で500gを使うくらい。ひきずるようにしたり、大きく動かしたりと、コテの動かし方で色々雰囲気が変わってきます。円を描くように柄をつけると柔らかい印象になります。



角の部分は、角を押さえるコテが便利です。一度目を塗った後、2時間以上乾燥させます。

一度塗り目で凹凸をつけすぎると二度塗り目に影響するので、凹凸が気になる場合は、一度塗り目の乾燥後にサンドペーパーやサンダーでやすりがけしておきます。

5.モルクラフト主材 二度塗り目 平らに塗り重ね凹凸を無くし磨く



二度塗り目は、一度塗り目で出来た凹凸を埋めるようコテでうすく塗り広げて平らにします。二度塗り目も必要量は1㎡で500gを使うくらいの目安でうすく塗り広げます。

次に、表面をコテで磨いていきます。少しだけ乾燥（10～15分くらい）させてからきれいなコテを水平に当てます。

コテ面を使って表面を磨いていくことで表面のキメが細かく詰まり、材料に含まれる雲母が角度によってキラキラと輝く美しい仕上がりになります。

表面に触れてしっとりした感触だけれど手につかないくらいがコテで磨くベストな状態です。コテでなぞった部分が取れたり、施工面にゴミが出る場合は早すぎるのもう少し乾燥させる必要がありますが、逆に乾燥させ過ぎると磨き作業ができないので注意が必要です。コテは常にきれいな状態で磨きます。

モルクラフト主材を塗った後はしっかりと乾燥させます。一晩置いて翌日に次の工程に進むことをおすすめします。



コテの摩擦熱で磨いた跡が黒い筋になる状態（コテ焼け）が気になる場合は、表面をサンドペーパーでやすりがけすることで目立たなくなり、なめらかな仕上がりとなります。

コテ焼け対策について



ステンレス製のコテで表面を磨く際に、コテの摩擦で黒い筋が目立つ場合がございます。特にうすい色の場合は、そのコテ焼けが目立ってしまいます。コテ焼けを目立たせなくするには、何点か方法がありますのでご案内いたします。

方法1 凹凸を極力つけないようにする

モルクラフト主材塗り1回目から、凹凸が付き過ぎないように平らに塗ることで、コテ焼けは軽減されます。

方法2 プラスチック製のコテを使用する

ステンレスの摩擦によってコテ焼けが発生するので、ホームセンターなどにあるプラスチック製のコテを使用することでコテ焼けは発生しません。ただしプラスチック製のコテはやわらかいため、力を入れて磨く作業には向いていません。

方法3 うすくモルクラフト主材を上塗りする

2回目のモルクラフト主材塗りと磨き工程のあと、うすく3度目のモルクラフト主材を塗ります。

方法4 300番程度のサンドペーパーでやすりがけをする

コテ焼け部分だけを集中的にやすりがけするのではなく、全体的にぼかすようにやすりがけすることをおすすめします。

6.専用トップコートを上塗りする（2度塗り）



専用トップコートはA剤とB剤と水を混ぜて使うタイプです。

割合は「A剤：B剤：水=5.2：1：0.9」。

- ・1度塗り目はコテで、2度塗り目はローラーを使って合計2回塗り重ねます。
- ・ローラーは未使用のものを使用し、ローラー目が残らないよう短毛ローラーを使用します。
- ・1度目塗りの方が吸い込みがある分、やや多く量が必要となります。

A剤+B剤+水で混合。混合比率はこちらの表をご参照ください。

1m²/1度塗りの割合

施工面積	A剤	B剤	水	合計	施工面積	A剤	B剤	水	合計
1m ²	73g	14g	13g	100g	7m ²	511g	98g	91g	700g
2m ²	146g	28g	26g	200g	8m ²	584g	112g	104g	800g
3m ²	219g	42g	39g	300g	9m ²	657g	126g	117g	900g
4m ²	292g	56g	52g	400g	10m ²	730g	140g	130g	1000g
5m ²	365g	70g	65g	500g	11m ²	803g	154g	143g	1100g
6m ²	438g	84g	78g	600g	12m ²	876g	168g	156g	1200g

A剤とB剤と水は混ぜ合わせてから時間が経つと固まってしまうので、都度使う分だけ混ぜ合わせます。

A剤容器の中身は、取り出す前によくかき混ぜます。必要量のA剤とB剤をしっかり混ぜてから、水を加えてよくかき混ぜます。

表面の細かな穴の中まで浸透させるよう、コテで押し込みながら1回目を塗ります。水周りの場所にも使用できるのはトップコートでしっかり表面を覆っているからなので、塗り残しが無いよう色々な方向にコテを動かして塗る必要があります。

塗布量が多すぎると、専用トップコートが液だれしたり、白濁したまま硬化してしまうのでご注意ください。

塗布量が多すぎる場合は、ローラーで余剰分を取ります。

乾燥している表面に塗ると白い気泡が出来る場合がありますが、その際はコテやローラーでこすると消えます。

4～5時間乾燥させます。

2回塗り目を行う前に、サンドペーパーやサンダーで全体をやすりがけしておく、より表面がなめらかになります。

1回塗り目と同様に、今度はローラーで色々な方向で塗っていきます。トップコート塗りに使用したローラーは硬化剤が付着しているので再利用はできません。

24時間後に完全に表面が固まってベタつきはおさまりません。



注意事項

- ・ 施工手順、乾燥時間をしっかり守ってください。
- ・ 施工（乾燥時間を含む）は5°C以上、35°C以下の環境で行ってください。
特に5°C以下の環境下で乾燥させてしまうと、白化の現象が起こる場合がございます。寒い時期の屋外施工を避けてください。
- ・ 施工（乾燥時間を含む）の際は、ホコリなどが付着しないようご注意ください。
- ・ 各工程でサンドペーパーを使ってやすりがけをする際、やすりがけをしている箇所としていない箇所で色の差が生じる場合がございます。やすりがけを行う際は、全体をぼかすように行うことで美しく自然な仕上がりになります。
- ・ 一人で広い面積を塗るのは、施工途中で乾燥してしまうため初心者には難しく注意が必要です。
小さな板などで練習をしてから施工してください。

メンテナンス方法

- ・ 普段は乾いた布か固く絞った布で軽く拭く程度で十分です。
- ・ 油汚れが付いた際には中性洗剤を浸した布で軽くこすり、水拭きをして最後に乾拭きをします。
- ・ トップコートはメンテナンス無しでも長期にわたる耐久性を有しておりますが、使用箇所や使用頻度など状況により表面の劣化（防水効果の劣化）が起こる場合がございます。
その際はサンドペーパー等で古いトップコート層を除去し再塗布する事により効果がよみがえります。

お客様施工事例募集

モルクラフトで施工されたお写真とご感想をぜひご投稿ください。
いただいたお写真は、弊社ショッピングサイトやカタログ、SNSにてご紹介させていただきます。
ご応募いただいた中から抽選で毎月、10名様に「当ショップで使用できる500円割引クーポン」をお送りいたします。



- ・ 施工前／施工完成のお写真◎
 - ・ 養生したり、施工途中のお写真なども大歓迎
- ご意見・ご感想お待ちしております

施工事例投稿フォーム
はこちら→



モルクラフト施工に関するご不明点は お気軽にお問い合わせください
株式会社タカラ塗料 / www.takaratoryo.shop / Email : info@mixing-colors.jp

ver.250312